



新型コロナウイルスのもとで¹⁾ ~わたしはこう過ごしてきました・こう過ごしています~

〈vol.3〉

突然の長期休暇と料理

会員 中川 紗希 (61 期)

緊急事態宣言が発令され、打ち合わせも、法律相談も、期日も全て取消しになり、あっという間に暇になってしまった。私は、一人事務所で、事務員もいなかったため、当初は「郵便物が来るから」と理由を付けて、毎日事務所に通っていたが、事務所にいても、電話も掛かってこないし、やることもない。そのうち、2日に1回くらいしか事務所に行かなくなった。

特に趣味を持たない私は、時間を持て余してしまった。あまりにもやることがないので、今まで全くやらなかった料理を作るようになった。ただ、料理を作ったことがないので何をどう作れば良いか分からない。そこで、レシピを色々調べ始めた。その中でも、キッコーマンのレシピが、分かりやすく、入門者には使いやすかった。美味しそうなレシピを見つけては、作るという作業は意外に楽しかった。当時、立川市より西に行かなければならない用件があったが、最寄り駅の近くに大きなスーパーマーケットがあり、買い物に行く楽しみもあって遠方にも

かかわらず足繁く通っていた。その案件が解決したとき、「あ〜あのスーパーマーケットに行けなくなるな」と少し残念に思う自分もいた。

料理を作ってみて思ったのは、食材を無駄なく使いながら、毎日3食分の献立を考えることの大変さだった。高校生のとき、ホットケーキのみが入ったお弁当を見て「手抜きが過ぎやしないかい…」と思っていたが、お母さん、ごめんなさい。料理の大変さって作るだけじゃないのね。母の大変さを身をもって感じる事ができた緊急事態宣言下だった。





新型コロナウイルスのもとで～わたしはこう過ぎてきました・こう過ぎていきます～

〈vol.4〉

「もがれた翼」特別編～ZOOM IN 子どもシェルター～

会員 園田 琴子 (72期)

それは、「園田さん、イケるんじゃない？」という坪井節子会員の一声から始まりました。

「やりますやります！」二つ返事で引き受けたのは、なんと17歳の高校生役でした。

その日は、弁護士登録をして初めて出席した、子どもの人権と少年法に関する特別委員会の部会会議。毎年当委員会で制作している「もがれた翼」は、今年は新型コロナウイルスの影響で舞台公演を中止としましたが、「子どもシェルター」をテーマにZoom劇を作成し、無料配信することとしました。出演者は全員弁護士ということで、肝心の子役を誰がやるのか議論が紛糾していたとき、ナイスなタイミングで私が現れたというわけです。これまで「もがれた翼」の舞台を観たことはなく、正直趣味の範囲のものと思っていたこともあり（ごめんなさい）、やると即答してしまったのです。

後日、これまで公演した「パッチワーク」、「素数とくるみ」がYouTubeにて配信され、それを観たときやっと事の重大さに気が付きました。鏡に映る、どう見ても17歳には見えない顔、そして明らかに10代ではない貫禄のある声。焦った私は、某有名子役の



上段中央が筆者

方の声マネを猛特訓し、日々細胞に「私は17歳！思い出すのよ！」と言い聞かせました。

優しいメンバーの皆さんと、タヒチアンダンスを練習し、手話を教わり、ラーメンの事を考え（皆様YouTube「もがれた翼」で検索を！）、作品を完成させました。実際に会うことなく、オンラインで打ち合わせや撮影を行ったため、Zoom打ち上げにて「園田さんって本当に存在するよね？」と確認されたほです。

インハウスで活動する私にとって、初めて自分の名前で世に出したものがこの「もがれた翼」となりました。こんな日が来るということ、偏差値30から弁護士になりたいと猛勉強を始めた17歳の私に、教えてあげたいです。